

シャークウッド club



の 情報便



presented by SEKISUI HOUSE

2013年12月号

木の楽器が持つ 魅力に魅せられて

ヴァイオリン製作者
松上一平さん

2012年秋、弦楽器製作の世界最大級のコンクールのひとつ「アントニオ・ストラディヴァリ国際ヴァイオリン製作コンクール」で、若手最優秀賞「サッコーニ賞」を受賞した松上一平さん。ひとり黙々と楽器製作に取り組む工房は、周囲を美しい山々に囲まれた南アルプス市（山梨県）の閑静な住宅街にあります。何百年も弾き継がれる“木の楽器”に惚れ込んだ松上さんが目指すのは“普通のヴァイオリン”。このシンプルな言葉には、職人ならではのこだわりと楽器作りに対する熱意が込められています。

森の 情報便 presented by SEKISUI HOUSE



TOP

ダウンロード

過去号



丹念なカンナがけが
生み出す柔らかな曲線。

高台の静かな住宅街に建つ、ごく普通の一軒家。その2階にある一室が、松上さんの工房です。扉を開けると、ほのかな木の香りと松上さんの柔和な笑顔が迎えてくださいました。

「ヴァイオリンの構造は意外とシンプルなんです。表板、横板、裏板を箱状に接着したボディに、渦巻き状の装飾を施したネックを取り付け、細かなパーツをセットすれば完成です。」

この日、松上さんが手がけていたのは表板のカンナがけ。大きさの異なる十数種類の豆カンナを使い分け、楽器を横から見ると分かるなめらかなふくらみ(アーチ)を作り上げていきます。

「昔の名工が作った名器と呼ばれるヴァイオリンについては、“アーチがどんな曲線を描いていて、それぞれの箇所の板の厚みは何ミリに削ってあるか”といったことが分かる資料があるので、それも参考にしながら少しずつ慎重に削ります。」

昨年作った楽器は全部で6本。行程を少しずつ3本を並行して作るのが、現在の松上さんのスタイルです。





年月を経ることにより増す
木という素材の魅力。

工房の棚には、表板用、ネック用などパーツごとに木取りされたヨーロッパ産の木材（表板はマツ科のスプルース、裏板、横板、ネックはメイプル）が並び、静かに出番を待っています。

「木は切り出された後、年数が経つほど楽器にとって良材になるので、手に入れた時期が古い木材から順に使っています。」
子どもの頃から木工作が大好きだった松上さんですが、木に対する愛着はますます深くなっているそう。

「地球上でいちばん好きな素材です（笑）。奈良や京都の古いお寺を見てもわかる通り、木で作られたものって、修理をしながら何百年も使い続けられるじゃないですか。しかも弦楽器の場合、作られてから何十年、何百年と経つうちに、木材の経年変化によって音の鳴り方が変わっていきます。“古い楽器独特の音がある”と言われるのはそのためです。」





自然な美しさを持つ
“普通の楽器”に
行きつくまで。

2008年の夏にヴァイオリン製作者として独り立ちした当初、松上さんが目指したのは「見た瞬間に松上作灯と分かるようなヴァイオリン」を作ること。古い楽器から学ぼうという意識は、ほとんど持っていなかったそうです。

その意識が変わるきっかけとなったのは、恩師の言葉でした。

「初めて完成したヴァイオリンを手にも上京し修行時代の恩師に見せたところ、“よくできてはいるが、個性が強すぎる。もっと普通のヴァイオリンを目指した方がいいと言われました。”その日以来、“普通のヴァイオリンとは何か？”という視点で古い楽器をじっくりと見るようになった松上さん。

「ストラディヴァリをはじめとする優れた製作者の楽器には、共通して“自然な美しさがあることに気づきました。きっと彼らは、常に自分自身にとっての“普通（あるべき姿）のヴァイオリン”を追求していたのだと思います。」





“何百年も愛用される” 楽器の作り手として。

官能的なまでに美しい曲線、神秘的な輝き……。芸術品と呼ぶにふさわしいこの楽器の作り手は、職人というより芸術家なのでは？

「職人であるべきだと思います。それを突き詰めることで、自然と芸術的な要素が加わってくるのではないのでしょうか。たとえば、手慣れたからこそ出せる曲線が芸術性につながる、とかね。」

完成した楽器の“音”への評価は、各人の好みによる部分が多いものの、評価の高いヴァイオリンには共通点があるそうです。

「どれも見た目が“普通”なんです。クセのない、とても自然できれいな形をしている。やはりそういう普通の形がいちばん鳴りやすいということなのでしょうね。ですから“音”のためにあれこれこだわるよりも、丁寧にきれいな楽器を作ることの方が、結局は良い音へのいちばんの近道かなと思っています。」

作った楽器が、今後何百年も愛用されていくことを常に意識しながら作っているという松上さんの言葉や製作する姿から、職人としてのひたむきさと誠実さ、そして熱意が伝わってきました。






松上一平

1985年、京都府生まれ。幼少時代から山梨県で育つ。

高校卒業後、都内の製作学校で学びながら、弦楽器店で修行を重ねる。2008年、実家のある山梨県南アルプス市に戻り、自身の工房を開業。2012年9月、ヴァイオリン製作の聖地イタリア・クレモナで3年に一度開催されている「アントニオ・ストラディヴァリ国際ヴァイオリン製作コンクール」のヴァイオリン部門とヴィオラ部門に作品を出品。ヴィオラ部門7位に輝いた作品が、全4部門の30歳以下の参加者全員の作品の中で最高点を獲得したことで、若手の最高位「シモーネ・フェルナンド・サッコ二賞」を日本人として初めて受賞した。

©公式webサイト <http://www.ippei-violin.com/>



住まいづくりに役立つ
カタログを
ご用意しております。

木の家と暮らしを想し心人のための会員制サイト
シャールウッド club

「森の情報便」をはじめとする
コンテンツをお楽しみいただけます。

SHAWOOD

積水ハウスの木造住宅「シャールウッド」に
関する最新情報をご紹介します。

森の情報便 presented by SEKISUI HOUSE

◀ 1 2 3 4 5 6 ▶

TOP ダウンロード 過去号